

ノジコ 英: Japanese Yellow Bunting 学: *Emberiza sulphurata*

1. 分類と形態

分類: スズメ目 ホオジロ科

ホオジロ属に属し, 系統的にはアオジ, シマノジコ, シマアオジ, カシラダカ, およびコホオアカに近縁(del Hoyo *et al.* 2011).

全長: 13-14cm

自然翼長: ♂ 69.6mm (65.5-73.5, n=131) ♀ 66.2mm (63.0-71.0, n=107)

尾長: ♂ 56.2mm (51.5-59.0, n=65) ♀ 54.5mm (50.0-66.0, n=51)

露出嘴峰長: ♂ 9.9mm (8.5-11.1, n=54) ♀ 9.9mm (6.6-10.9, n=46)

ふ蹠長: ♂ 18.6mm (17.2-19.9, n=68) ♀ 18.7mm (17.4-19.7, n=49)

体重: ♂ 15.7g (13.4-18.3, n=58) ♀ 15.1g (13.8-16.5, n=43)

※ 全長はdel Hoyo *et al.* (2011)による. その他は新潟県長岡市における捕獲個体の計測値(平均値(最小-最大)).

羽色:

オス, メスともに白いアイリングがあり, 下嘴は青灰色で, 尾羽の外側2枚(T5,T6)に白色部がある. 繁殖期のオスは頭部が灰色味のある黄緑色で, 目先は黒い. 体上面は淡い黄緑色味を帯びた褐色で黒色の縦斑がある. 中雨覆および大雨覆の先端は白っぽい. メスは全体的に茶色味を帯び, 体下面の黄色は淡く, 脇腹の縦斑も多い(写真1). 非繁殖期では, オスは目先が灰色になり, 全体的にくすんだ色となる. メスは全体的に茶色味が強くなる.

鳴き声:

さえずりは「チチ チーチー プリリィ チィチョ」などで, スギの梢など同所的に生息するホオジロと全く同じソングポスト(さえずり場所)を利用することがある. 地鳴きは「チッ」でアオジよりも控えめな印象を受ける.

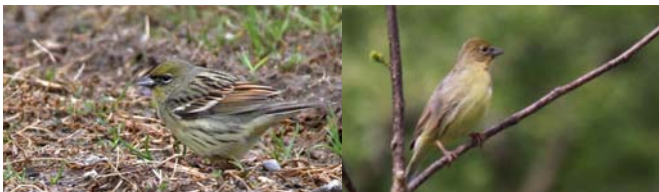


写真1. 繁殖期のノジコのオス(左)とメス。
[Photo by 福田幸充(オス), 小川龍司(メス)]

2. 分布と生息環境

分布:

繁殖地は日本のみで, 主に本州中部以北で局地的に繁殖する(図1). そのほか北海道における繁殖期の記録(梶田 2005)や兵庫県における繁殖事例がある(兵庫県野鳥の会1990). 越冬地は主にフィリピン北部のほか, 台湾および中国南部が知られており, 国内においても冬期に少数記録がある(del Hoyo *et al.* 2011).

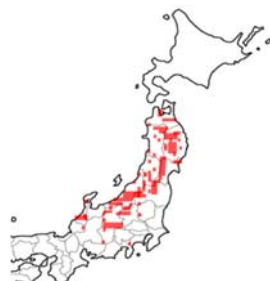


図1. ノジコの繁殖分布(1997年~2002年). 環境省自然環境局生物多様性センター(2004)から作図.

生息環境:

繁殖期は低山帯の沢筋の林縁や湿地を伴った低木林・疎林などに生息している. これらに共通するのは湿潤な環境とやぶ・低木林であると考えられる. 富士山北麓では湿潤な環境を有さないカラマツ林に主に生息している(西

2013). このような環境は全国的に存在すると考えられるが, 本種の分布が局地的である点が興味深い. 越冬地では標高1500mまでの草本または低木の密生した環境や草地, 農耕地などを利用する(del Hoyo *et al.* 2011).

3. 生活史

繁殖システム: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
非繁殖期 繁殖期 渡り

一夫一妻. 4月下旬頃, オスが先に繁殖地に渡来する. 求愛行動およびつがい形成をやぶ環境で行う.

巣・卵:

低木の高さ1~2m程の枝上や草本の根元に枯れた草の葉茎などを用いて椀形の巣を造る. 産座には草本の細根などを敷く. 卵は, 灰白色の地に暗褐色の斑があり, 一腹卵数は3~5卵(清棲 1978).

抱卵・育雛期間:

抱卵およびヒナへの給餌はオスとメスが共同で行なう. 抱卵期間は約14日間で, ヒナは孵化後7日ほどで巣立つ(金子 1979).

渡り:

秋の渡りは, 新潟県では10月に始まり, 10月上旬および中旬の2回のピークが見られる. 新潟県のピークの約1週間後に, 約350km南に位置する福井県中池見湿地においても2峰型のピークを示す(渡辺・木下 2013). 中池見湿地は「ノジコが渡りの中継地として定期的に利用する」ことがラムサール条約登録基準の一つとされ(Kanda 2012), 多い年には1シーズンに400個体以上が利用する(吉田 2005). 一方で, 国内において春の渡りの主要な中継地は確認されていない(梶田 2005).

4. 食性と採食行動

草本の種子, 特にシソ科の種子をついばみ(清棲 1978), 秋の渡りの時期には, ミゾソバの種子を採食する姿も確認されている. 繁殖期には, 水田の畦や高木の枝上で昆虫類を捕食する. 筆者の観察した1巣では, ヒナへの給餌は鱗翅目の幼虫が多数を占め, そのほかクモ類や直翅目の幼虫が与えられていた.

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 中山間地域の放棄田との関係

本種は, 新潟県南部の中山間地域において高密度で繁殖している. 中山間地域では全国的に水田の耕作放棄が進み, ヨシやススキ, セイタカアワダチソウなど丈の高い草本やタニウツギなど低木の優占するやぶ環境が拡大している(写真3). やぶ環境を好むノジコにとって, 水田の耕作放棄は生息環境の増加につながるのではないかと調べてみたところ, ノジコの生息数には耕作放棄によって形成されたやぶよりも, 林縁の長さや, 雪崩地(“雪国そだち”参照)の指標として用いた地すべり跡地の面積が効いていることが分かった(Deguchi *et al.* 2016, 図2). ノジコは繁殖期に, つがい形成や営巣場所としてやぶ環境を利用する

だけでなく(曾我1996),採食やさえずり場所として高木も利用する.そのため,やぶ環境と高木が隣接する林縁や地すべり跡地(山の斜面に存在し,雪崩地と同様に丈の高い草本や低木が優占するため,森林とやぶ環境が隣接している)が好まれたものと考えられる.しかし,ノジコは放棄田のヨシ原やススキ原にも営巣しており(金子 1979,写真4),副次的な繁殖環境として放棄田も利用しているものと考えられる.一方で秋の渡りの時期には,多くの個体が中山間地域の耕作放棄地であるヨシ原を利用する.筆者らが2014年の秋に行った調査では,約0.4haのヨシ原で1日あたり約50個体が標識放鳥された.また,前述した中池見湿地も周囲を山に囲まれ,放棄田にヨシ原が広がっている.このように,中山間地域の放棄田に形成されるヨシ原は,渡りの中継地として本種に重要な環境であると考えられる(渡辺・木下 2013).



写真3. 中山間地域の放棄水田に生育する樹木とヨシ。



写真4. 放棄田に生育するススキの根元に造られた巣。

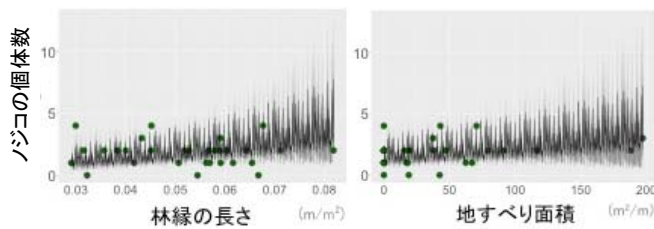


図2. ノジコの個体数と林縁の長さおよび地すべり面積との関係。●は実測値を示し,実線は実測値の分布傾向を示す回帰曲線。(Deguchi et al. (2016)を改変)

● 雪国そだち

夏鳥であるノジコは冬に日本にはいないが,本種の繁殖分布は,特に新潟県において多雪地帯と重なっている(中村 1994,渡辺 2012).これには,多雪地特有の低木を中心とする雪崩植生が本種にとって好ましい環境となっている点(金子 1979,渡辺 2012),および豊富な雪解け水によって本種の好む湿潤な環境が形成されやすいという2点が可能性として考えられる.また,本種は,なわばり形成後につがい形成を行う同属他種とは異なり,つがい形成後に移動してなわばりを形成するが,この理由の一つとして積雪による利用可能環境の制限が示唆されている.つまり,本種は残雪のある頃に繁殖地に渡来し,限られた利用可能な環境でつがい形成を行った後,雪解けによる利用可能環境の拡大に伴ってなわばり分散を行うのではないかとされている(曾我 1996).本種の局地的な分布は,このように多雪地など独特な環境を選択している結果かもしれない.

● 人知れず減少する恐れ

IUCNのレッドリストでは危急種(VU)に指定されており,世界中の総個体数は約3,500~15,000と推定されている.種の存続を脅かす要因としては,生息地の消失,過度な農薬の使用および捕獲圧がある(IUCN 2014).全国的に分布は拡大しており(環境省自然環境局生物多様性センター 2004),新潟県においても同様の傾向が見られる(渡辺 2004).一方で,群馬県など分布が縮小している地域もある(日本野鳥の会群馬 2014).本種の存在は生息地域の住民にさえ,あまり知られておらず,生息地の開発などにより人知れず減少する危険性がある.

6. 引用・参考文献

Deguchi, S., Ishihara, Y. & Miguchi, H. 2016. Habitat preferences of breeding Yellow Buntings *Emberiza sulphurata* in hilly rural areas following rice field abandonment in northern Japan. *Bird Conservation International*, 1-10. doi:10.1017/S0959270916000435

del Hoyo, J., Elliott, A. & Christie, DA. 2011. *Handbook of Birds of the World*, Vol. 16. Lynx Editions, Barcelona.

兵庫野鳥の会. 1990. 兵庫の鳥 増補改訂版. 旭成社. 神戸.

IUCN. 2014. The IUCN Red List of Threatened Species. <http://www.iucnredlist.org>. (最終確認2015年1月25日)

日本野鳥の会群馬. 2014. 群馬県鳥類目録. 日本野鳥の会群馬, 高崎.

梶田学. 2005. ノジコの春の渡り-北海道の謎-. *パンダーニュース* 30: 7.

金子与止男. 1979. ノジコの生活史. *新潟県生物教育研究会誌* 14: 33-38.

Kanda, S. 2012. Information Sheet on Ramsar Wetlands. <https://rsis.ramsar.org/RISapp/files/RISrep/JP2057RIS.pdf>. (最終確認2015年4月10日)

環境省自然環境局生物多様性センター. 2004. 鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター. 富士吉田市.

清棲幸保. 1978. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 I. 講談社. 東京.

中村登流. 1994. 上越鳥の会(編). 雪国上越の鳥. 郷土出版社. 松本.

西教生. 2013. 富士山北麓でのノジコの繁殖環境. *富士山研究* 7: 25-27.

曾我茂樹. 1996. ノジコの繁殖生態. 上越教育大学大学院修士論文.

渡辺央. 2004. 新潟県におけるノジコの生息状況について. *野鳥新潟* 128: 2-4.

渡辺央. 2012. 雪国の里山と鳥類. 私たちの自然 (576): 5-7.

渡辺央・木下徹. 2013. 2012年度新潟県におけるノジコの標識結果と中池見湿地の関係. 2013年日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集: 15-16.

吉田一朗. 2005. 敦賀市中池見におけるノジコの大量捕獲について. *パンダーニュース* 30: 2-6.

執筆者

出口翔大 新潟大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程3年 生態系管理計画学研究室

福井県出身で中学の頃から鳥を追いかけしています.学部の時はアオジの生息場所選択を研究し,修士からアオジに白いアイリングを加えてノジコの研究を始めました.水田の耕作放棄との関係のほか,地域間で異なる生息環境の違いや越冬生態など調べたいことは盛りだくさんです.小さくて可愛いノジコですが,漫画ワンピースのキャラクター“ノジコ”もなかなかのルックスです.キャラクター“ノジコ”の名前の由来が鳥のノジコからなのか?これも明らかにしたいことの1つですね.

